

令和４年度 府立亀岡高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）計画段階

学校経営方針		昨年度の成果と課題			本年度学校経営の重点	
◆学校経営方針		◆昨年度の成果と課題			◆本年度学校経営の重点 「誇りある亀岡高校での学びの実践」	
生徒一人一人が個性や能力を伸長させ、自立的に社会に参画し、人権尊重を基盤として共に支え合いながら、地域社会の一員としての役割を果たすことが求められています。このため、教育目標や教育方針に基づき、「自立し、ともに学び続ける(対話・挑戦・創造)」を最上位目標に掲げ、各学科、クラス、専攻がそれぞれの特色を活かしながら切磋琢磨することで、学校の活性化を図ります。		(成果) ・自他の生命や人権の尊重を基盤とした正しい判断力と実践力を育成することができた。 ・探究文理科、普通科美術・工芸専攻の特色ある取組を地域の関係機関と連携して進めることができた。 ・3年間を見通した普通科のジェネリックスキルのプログラムを構築し、様々な制限のある中、工夫して実践することができた。 ・完成年度を迎える探究文理科の3年間を通したプログラムを作成することができた。特に亀岡市と連携した取組は学年全体に広げて実施することができた。 ・生徒の学びの様子を公式ツイッターやインスタグラムで随時発信することで、本校への理解を深めてもらう機会となった。 ・スマートスクール活用推進チームが中心となって、ICTを活用した公開授業や研修会を進めることができた。 ・学科や専攻の特徴に応じた進路指導を全校体制で丁寧に進めることで、生徒の希望進路の実現に大きく貢献することができた。 ・多くの教育活動が制限されたり文化祭は中止となったりしたが、創意工夫することで生徒が主体的に取り組むことができる代替の取組を実施することができた。 (課題) ・探究文理科の探究活動の成果や手法を普通科全体に広げるには至らなかった。 ・ICT活用体制やルールの構築は、先が見通せない面が多く準備が遅れた。 ・広報活動を工夫したが、探究文理科や普通科美術・工芸専攻については募集状況が目標には達しなかった。			① 高い人権意識に基づく教育活動の推進 ・ 自他の生命と人権を尊重する意識や態度の育成 ・ 多様性を尊重し、多様な人となつながら姿勢の育成 ・ あらゆる場面で一人一人を大切にする指導の実践 ② 生涯を自らの力で豊かに生きることができる力の育成 ・ 自らの将来に目を向け、目標に向かう挑戦や努力を支える学校づくり ・ 興味・関心を刺激し、課題発見や解決、探究的な学びを進める指導の実践 ・ 学びに向かう力や主体的に学び考える力の育成(教育と学育の実践) ・ 新学習指導要領の着実な実施と教育の質の向上に向けたICT活用の工夫 ③ 社会に通じ、貢献できる力の育成 ・ 礼儀、健康的な生活習慣、規範意識を身に付ける指導の実践 ・ 様々な学びを通じた「自己肯定感」の醸成 ・ 仲間とともに高め合い、協働して取り組む姿勢を応援する学校づくりの実践 ④ 教育環境の充実 ・ 安心・安全に学ぶことができる教育環境の構築・整備 ・ 様々な課題の解決や克服に向けた家庭や地域、関係機関との積極的連携 ・ 1人1台学習用端末導入のための校内協力体制の確立 ・ 本校への理解の深化のための学びや取組の積極的広報 ・ 教職員の働き方改革をねらいとした業務の精選や組織づくり	
評価領域	重 点 目 標		具体的方策	評価	成果と課題	
組織・運営	魅力ある学校づくり	1	各学科、専攻の特徴を活かした高大連携、地域連携等の取組を充実させる。			
		2	探究文理科の取組を工夫し充実させ、学校全体の探究活動の幅を広げる。			
		3	タブレットの効果的な活用の研究を行い、管理体制・運用ルールを確立させる。			
	信頼される学校づくり	4	WEB、SNSなどを利用して生徒の学びの様子を発信し、広報活動を効果的に行う。			
		5	家庭や地域、関係機関との連携を図り、個々の生徒が抱える課題の把握やきめ細かな指導を組織的に行う。			
教育課程 学習指導	確かな学力とジェネリックスキルの育成	6	日々の授業を通して、自ら進んで学習に取り組む姿勢を育成し、一人一人の学力向上につなげる。			
		7	新学習指導要領の実施に伴う授業や考査、評価の円滑な実施を行う。			
		8	「ジェネリックスkill」の取組を充実させて、全生徒が卒業時にCan-doリスト3級を達成する。			
進路指導 キャリア教育	希望進路の実現	9	各学科、専攻の特徴に応じた組織的・計画的な進路指導を充実させることで、生徒の進路実現の可能性を広げる。			
	キャリア教育の充実	10	3年間を通したキャリア教育の取組を工夫し、生徒の主体性と自律性を育み、学び続ける生徒集団の実現を図る。			
生徒指導 人権教育	学校行事、部活動等の充実	11	部活動への積極的参加の指導を通して、主体性と自律性を育み健全な心身の発達を目指す。			
		12	体育・スポーツ活動や芸術文化活動の活性化と学校行事及び特別活動の充実を図る。			
	生徒の自立・自律	13	「自立し、ともに学び続ける(対話・挑戦・創造)」生徒集団の育成に向けて、スモールステップの目標設定と評価を繰り返すことで、その実現を図る。			
		14	学校行事の企画や運営に生徒が主体的に参加できるようより一層の工夫を図り、生徒のコンピテンシーの向上につなげる。			
		15	成人年齢引き下げにより、社会人としての自覚と責任を一層意識させる指導を行う。			
	豊かな人間性の涵養	16	自他の生命や人権の尊重を基盤とした正しい判断力と実践力の育成に努め、人間としての在り方・生き方を深く考えさせる。			
		17	人権学習を工夫改善し、人権問題を自らの課題として捉え、解決に向けて実践する資質・能力を育成する。			
	教職員の意識向上	18	高い人権意識に基づく教育活動を実現するために、教職員研修を充実させ、人権意識の高揚を図る。			
健康・環境 美化	生徒の意識向上	19	新型コロナウイルス感染症対策や危機管理に関して、生徒が意識的に対策を講じるよう啓発活動を充実させる。			
		20	健康診断、経過観察、事後指導を充実させ、生徒の健康管理、生活習慣の改善に努める。			
教育環境 の整備	安心・安全の実現	21	清潔な学習環境を保つ清掃・衛生管理を進めるとともに、常日頃の課題意識や危険予測に基づいた施設・設備の維持管理を行う。			
		22	新型コロナウイルス感染症に関する最新情報を踏まえ、安心・安全な学校作りを進める。			
	ICT機器導入と管理	23	タブレット導入に係る維持・管理をはじめ、高度化するICT機器の活用を協力して進め、校内の基盤であるネットワークの維持のためのより良い体制の構築を目指す。			
研究指定等	府立高校特色化事業(スーパーサイエンスネットワーク京都校)、高校生伝統文化事業(京の文化継承・価値創造推進校)					
評価	A: 十分達成できている(目標以上の成果が得られた) B: ほぼ達成できている(ほぼ目標どりの成果が得られた) C: 達成できているとはいえない(成果はあったが、目標に達していない) D: ほとんど達成できていない(ほとんど成果がなかった)					
学校関係者評価委員による評価						
次年度に向けた改善の方向性						